

## 最後の釣りへと

いつもの船頭さんの船に乗るとき、かなりの段差があり、知人が1人では乗れないため、足を上げさせ、尻を押し上げて、ようやく船の中へ。

実は、知人は、昔からの釣り仲間だったとか。脳梗塞で倒れ、しばらく釣りから離れていたのです。

迎えに行ったとき、夫人からは、「今回の釣りが最後だと思うので、もし体調が悪くなったら〇〇病院へ、夫を直接運んでください」といわれていたといいます。長年、釣り仲間として、ともに楽しんできた恩返しのつもりでの、釣り行きでした。

風が強く、うねりもあるので、養殖いかだに係留しながら、船頭さんがいったのだとか。「地震があったから、海の底、濁ってっからなあ」

「えっ、地震があったんですか。運転中だったから知らなかった」

心の中では、「そうと知っていたら、乗船しなかったのに。船頭さんも仕事だから、沖に出て、そんなこというんだ」と、心の中でつぶやいたそうです。

ときすでに遅し。案の定、海底にいるカレイは、まったく釣れなかったものの、船から魚影は見えたとか。

フグもおり、餌ばかりとられて、仮に釣れても食べられない…。

イシモチを何匹か釣って、引き上げることにしたそうです。

何とか無事に、知人を送り届けることができ、ホッとしたのも、当然でしょう。

## 店頭から 「こんにちば」

第123回

## 元気なころから楽しんできたことは頭から離れない 趣味を楽しむために仲間がいれば

50歳代の男性が、海釣りへ久々に行きました。夜中に出発、知人を迎えに行き、漁港へと向かいます。港に着いて着替えるとき、知人が、「着替えを手伝ってくれ」といいました。今回は、その顛末を。

「これが最後の釣りという言葉は、もう誘わないでくださいということなんだろうな」と思ったそうです。

## 大切なのは助っ人

その翌日のこと。その知人から、「今度はいつ行くんだい？」との連絡が入ったといいます。

50歳代の男性が、おクスリを買いながら、以上のような話を。

その帰りがけに、私は、「われわれが若いころ、何度もスノーボードに行った仲だから、私が要介護状態になっても、近くのスキー場でいいから連れて行ってくれるかい？」と聴きました。「ウェアを着替えさせてもらって、ブーツも履かせてもらって、やってくれるよね」とお願いしてみたのです。

すると、彼は、「返事、できないっ」と笑いながら、自動車で走り去りました。

元気なころ、楽しんでいた趣味は、年齢を重ねて、からだが思うように動かなくなっても、頭から離れないもの。

とはいえ、助けてくれる人さえいたら、「昔とった杵柄」と、実行に移せるかもしれませぬ。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表  
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ  
宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「待望の春。とはいえ、体調の変化には留意を」

